

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373001128		
法人名	医療法人 豊成会		
事業所名	どんぐりの家		
所在地	愛知県豊田市青木町5-88		
自己評価作成日	平成21年11月 1日	評価結果市町村受理日	平成22年 2月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2373001128&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2373001128&amp;SCD=320</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F
訪問調査日	平成21年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々のスタッフを多めに配置し、きめ細やかなケアに心がけている。  
また、認知症ケアにとって忘れてはならない、一人一人の方が人生で様々な体験を重ねてこられて、とても尊い人であるということを全スタッフが理解し、スタッフ同士でも、又、入居者さんとの関係でもコミュニケーションを大切にケアにたずさわっているところ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

非常に完成度の高いホームである。管理者の熱い思いを受け、自然体の中で利用者と職員とが交わりあい、ホームには穏やかな時が流れている。が、時としてボランティアや元職員が訪れることによって、平坦になりがちなホームの日常にアクセントをつけている。  
家族からは、今回も全員のアンケートが寄せられた。その内容は非常に満足感のあふれるものであり、家族からも全幅の信頼を得ていることがうかがえる。  
ケアについては、“バリエーションを使った利用者への関わり方”が、試行段階から実践段階へと進化しており、今後の進展が注目される。幸運にも、外部評価で「縁」をいただいた者として、この取り組みの一部始終を見届けたい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のふれあい、ぬくもり、なごみを大切にしたいケアに向け、スタッフ一同日々まいしんしています。	開設以来一貫して「人格尊重」を基調とした「ふれあい、ぬくもり、なごみ」をホームの理念に掲げており、全職員が温かなケアの実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	全入居者さんが日常的にというのは、それぞれの方の残存能力にも差があるので難しいが、全員の方の敬老会参加をはじめ、盆踊り、日々の散歩時の声掛けなど交流はもっている。	近隣の小中学校との間での行事への招待・参加をはじめ、各種地域ボランティアの訪問を受けるなど交流は盛んに行われている。訪問調査当日には、フラワーアレンジメントのボランティアが訪れた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議への入居者さんの参加や、又、地域の老人会の方への認知症のお話しなどと、機会を設けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この会により、地域の方々に事業所の理解が深まったと思われる。これにより地域の方々に大きな支援をいただいている。	自治会長の口利きで、隣接する市営公園との境のフェンスの一部が取り外し可能となった。今後は、ホームの庭から直接公園に出入りができる。会議では、利用者代表が適切な意見を述べ、出席者から賛辞を受けた。	ホームの課題解決には、より幅の広い階層からの意見や支援が必要となる。ボランティアとして訪れる人達にも、会議メンバーとして協力を仰ぐことも必要であろう。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年市町村からの依頼で認知症を抱える家族の会への参加や、市主催のGH対象の会議でのバリテーションの話の依頼も受け、協力しあえている。	管理者は、市からの福祉行政支援活動依頼に積極的に協力している。市の担当者も、制度の理解・普及に熱心で、今回の外部評価の現場を見学された。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のもたらす悪影響は充分理解している。ただし、玄関については施錠している。この物騒な世の中に、GHだから玄関の鍵をかけてはいけない、といったこととらわれることの意味が分からない。	住宅地の中に位置し、車通りからも隔たっているが、利用者の安全、施設防災の観点から、通常は玄関施錠を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	寄り添うケアを中心に行っており、虐待など考えられず、その悪影響をスタッフは理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については勉強会未実施だが、今回勉強が必要なものもでてきたため、学ぶ機会を設けたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分出来ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料が現金払いということもあり、話し合いの機会がわりと多い。そのこともあり、要望をキャッチしやすい環境にある。	話し合いの機会を増やせるよう利用料金の現金収受を行うなど、家族からの意見・要望・苦情の聞き出しに配慮している。また、運営推進会議には出席可能な利用者の参加を得て意見を聞き出している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	充分とは言えず、もっと機会を増やしていきたい。	医療法人を経営する法人代表は、管理者に施設運営を一任しており、管理者が自らの思いを実現させるためには絶好の環境にある。管理者を中心に職員のまとまりは強い。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者にほぼ任せておられる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者にほぼ任せておられる。したがって研修は受けやすい状況にあります。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者にほぼ任せておられる。同業者との交流は少しずつ増えてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より、担当スタッフのきめ細かい観察、支援により、それを全スタッフのものにしていく体制がとれている。入居時にとても大変な入居者さんがおられ、スタッフ一丸となって取り組んだ。このことにより、ご本人も落ち着かれ、スタッフもかなり勉強できたと思われる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な気持ちも充分理解できる。対話を多くもち、できた内容は、ひとつひとつ拾い上げ対応するようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	デイやショート枠は無いために、入居されてから、その人らしいケアの支援のために、スタッフ一丸で何度も話し合いを持ち、ケアしている。可能な要望には応じている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理など、入居者さんに出来る役割をやっていただき、スタッフと一緒に生活している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大切な事は細かい点までご家族と連携を取り合っている。たとえば、寂しがっているからご家族と外出を、などと伝えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者さんの来訪者は、気持ちよく受け入れさせていただいている。	利用者はいずれも高齢であり、親族が来訪する程度で、馴染みの関係にある友人知人等の訪問は少ない。そのような中で、元職員が気軽に訪問して利用者との係わりを持っているのが印象的である。	利用者の過去の関係を再構築することは至難の業ではあるが、利用者のお気に入りの人物や馴染みの場所等を把握して、こちらから出向くのも一策であろう。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レベルの差があり、難しくなっているものの、その方の能力に応じて関わられる場を設けている。例：リビングの席の位置の配慮など		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すでに退居されたご家族が、いまだに訪ねて下さったり、又、スタッフが退去したご本人に会いに行ったりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが一人一人の情報の伝達を心がけている。又、スタッフで話し合いの機会も設け、その人を大切にするためのチームワークはできている。	利用者ごとに担当者が決まっており、利用者の状態の把握、希望・意向の聞き出しを行っているほか、スタッフ間での情報交換も盛んに行われており、全員が情報を共有できる体制にある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	極力やるようにはしているが、まだまだ後付けでご家族から情報がでる人もいる。まだ努力の余地あり。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議で毎月こまめに話し合いをもって。日々の出来事もスタッフ間でかなり申し送られており、スタッフは実践のために努力している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	積極的な勉強会への参加などをし、スタッフのレベルアップを心がけている。一人一人の状況把握に努め、変化等を踏まえた上で、それをプランに生かしていている。	スタッフ同士がわだかまりなく、和気あいあいとした雰囲気が見られる。日々のケアの中でつかんだ情報も介護計画に盛り込まれている。	その人らしさを追求する個別ケアの観点から、利用者の“今の思い”を実現させるための計画づくりに挑戦してほしい。その人だけのための唯一無二の介護計画の完成が待たれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランをカルテの中に挟み、すぐに見れるようにしている。気になる点やプランの変更があればノートに記載し情報の共有に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分にできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクの外出や、又、ボランティアさんの受け入れ、近隣への買い物等と、全体で実施できるものや、個のものと分けて支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な方への専門医への受診の支援をはじめとし、十分にできている。	経営母体が医療法人であり、系列に老健施設を有することから、様々な面での支援を受けられる状態にある。利用者・家族だけでなく、職員にとっても大きな支えとなっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働はない(いない)。かわりに上記かかりつけ医や、同法人のDrにより診察、随時の相談にのってもらうなど、開所以来協力してもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の一日でも早い回復を願うため、関係機関と密に連絡を取り合っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状況はまめに報告、必要な折はさらに細かく連絡を取り合い、今後のケア内容や、別の施設の予約を勧めておく等のアドバイスを行なっている。	看取りまで行う方針はなく、重度化した場合には事前協議のもとに、他施設への移送を前提としている。新しい受け入れ先については、母体老健を含め、支援体制を整えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	つい先日にも救急法を実施。以前からも定期的に実施しており、これからも実施していきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震に関してはマニュアルを作り、訓練も行なっている。水害については事業所が高台にあるため現在は考慮していない。	緊急避難場所である市営公園に隣接しており、緊急時マニュアルの下に避難訓練を実施し、いざという時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重は理念でもあり、入居者さんのレベルの差がみられるが、個々の方への支援は、その人に応じた方法で行なっている。 例：歌の好きな人には歌で接するなど	バリデーションを活用し、利用者一人ひとりに適した係わりをもっている。やさしく丁寧な言葉使いや態度で接している職員の様子から、利用者個々の尊厳を大切に守っている姿が伺える。	恥ずべきことではあるが、家族から入室許可の取れている居室に、利用者に断りもなしに入ってしまった。すぐ、管理者から注意があったが、プライバシー重視の姿勢が強く感じられた。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかりと自身の思いを語れる方は思いを語られており、そうでない方へはこちらより声かけを多くし、自己決定できる場を多く設けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力希望を取り入れるようにしているが、場合によってはスタッフ側になることもある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたい人には化粧品を揃え、髪をきれいにしたい人には早々に美容院に同行するなど、努力している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の持っている能力に応じた食事内容にしており、又、その人にあったお手伝いをしている。	栄養士資格者がいるため、基本的な献立はできている。時季によって、利用者の意見を取り入れて季節感を味わえる工夫をしている。準備や片づけには、利用者の能力に応じた関与が見られる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、栄養、体重、排便具合など総合的に考え、個々に応じた支援ができている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕は全員口腔ケアができているが、昼食後は一部の人のみになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を把握し、トイレ誘導を促し極力汚染無い様に支援している。又、個々の尿量等に応じたその時必要なケアが行なえている。	認知度が進行して排泄に不安を訴える利用者には、あわてずゆっくり行うよう誘導し、失敗をとがめないような心配りを行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに野菜を多く取り入れたり、水分摂取少ない人は、お茶をゼリー状に固めて出したりと個に応じてやっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているものの、入浴日や順番は可能な限り本人の希望も取り入れたり、その方の体調も考慮した個に添った支援を行なっている。	入浴は一日おきとなっており、時間も概ね決まっているが、できるだけ利用者の希望(好き嫌い、入浴時間)に沿うよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、又、本人の様子をみて、本人がどうしたいかもたずねて個の支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正社員は把握できているが、非正規職員の方となるとまだ努力が必要。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、園芸、編み物、洗濯たたみ、台所手伝い等、必ず何かやれるものがある。それをその時々様子を見て行なえるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクの外出や、ご本人の希望を踏まえ、時にご家族とも連絡を取り合い支援している。	職員の所有する畑で、さつま芋の収穫体験を実施し、戸外での気分転換を図るなど家族・利用者への献身的なサービスが見られる。車いすの利用者も畑まで入り込んで芋掘りを楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で一括管理しているが、本人がおやつや備品等を必要としている時は、スタッフが支援して使っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さんからの訴えはほとんどないが、年賀状を出したり、希望があれば電話をかける等し、対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やトイレに貼り紙等で分かりやすくしたり、常時、四季の花を取り入れ、ゆったりと優しい感じが出るように色々と工夫している。	当日は、外部評価に加えてフラワーアレンジメントのボランティアや子どもを連れてきた元職員が訪問した。室内で飼われているペット犬はやや興奮気味に走り回っていたが、利用者や職員に癒しを与える効果は十分である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在もゆったりと1人で過ごしたい時はゆったりとお部屋で過ごされ、皆の所がよい時はリビングに出たりされている。又、入居者さんが他の方の部屋を訪問する姿もみられた。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんあまり持ち込みはされない方が多いが、人によってはなじみの椅子を持ってきてりされている。	居室2部屋の間の部分にトイレが作られており、利用者の排泄支援には大きな力となっている。どの居室にもベルサイユ調の大型机や収納ダンスが設置され、ハイクラスな雰囲気醸し出している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の力に合わせた支援ができるよう、即必要に応じ対応している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	64	GH来訪者数に対する家族アンケート結果と、スタッフの考えの違い(日々働くスタッフが来訪者は、たまにと考えている)	まずはGH入居者の方と地域の方の定期的な交流の場を設けてみる	運営推進会議にて地域代表の方々に交流会のお願いをする(1ヶ月/1回 木曜日等)	6ヶ月
2	4	問題点としてはとらえていないものの、評価機関より、会議参加者にボランティアの方の協力を仰いでもよいのではないかと助言あり	会議は回を重ねるごとに内容の深まりができていくが、メンバーの幅が増すことにより、さらなるステップアップとしたい	まずは現在来て下さっているボランティアさんに会議に月替わりで参加していただく(先方のご都合を考え調整させていただく)	6ヶ月
3	26	現状では、認知症の進行に伴い、大切なその人の今の思いの実現につながるプランが少ない	9名の方それぞれの今の思いをしっかりと受け止めるよう、深いところの気持ちをスタッフが丸となりつかみとる	深いところの気持ちをくみ取るためにバリテーションを取り入れ、一人一人の方とじっくり向き合う。必要な折はプランに向けて家人をはじめ周囲に協力をあおぐ	6ヶ月
4	20	入居当初の来訪者は多いが、入居年月長期化と共に減少している	一日一日が貴重な入居者さんの、記憶のより鮮明な今の思いを大切に支援していく	入居時の家族の方からのこの部分でのきめ細かい情報収集に努める。収集した情報をもとに、ご本人の気持ちをとり入れ、家族、事業所の連携をとり、面会できる機会を作る	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。